

人の自立をささえる北欧の多様な居住環境デザイン ～社会システムと場所の質からよみとく 北欧の「ふつう」の生活 その3～

本研究会では、北欧において、Vulnerable な社会的状況に直面している人々に対し、どのような居住の場や仕組みが提供され、こうした人々の「ふつう」の生活をささえているのか。居住の持続可能性に関する試みをフィンランド、スウェーデン、デンマークでの事例を通じて読み解いていきます。

■開催日時： 2018年11月23日（金）13：30～17：00

■会場： 日本建築学会／会議室

■プログラム：

主旨説明（司会西田徹／武庫川女子大学）

1. 精神に障害のある人々の自立を包括的に支える仕組み（巖爽／宮城学院女子大学）
2. コレクティブハウスにおける協働と看取り（水村容子／東洋大学）
3. ひとり親やDV被害者のための居住支援（葛西リサ／立教大学）
4. 我々は「ふつう」暮らしをどうとらえ、どう参照すれば良いのか
（橘弘志／実践女子大学）

ディスカッション